

## 『我に返って』 ルカの福音書 15章11～32節 2016.6.19(父の日特別礼拝説教より)

『私たちが神の子どもと呼ばれるために…御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。…』 Iヨハネ 3:1

◆聖書は神を『父なる神』と呼ぶ。それは、この神がすべての根源(創造主)だから！この父なる神を知ればこそ、人のあるべき姿を知る。聖書のテーマは一貫して『救い』！それは『神に立ち返ること』(「罪」とは神から離れること！人は、神から離れて悪を行い、神と共にあればこそ正しく聖い生涯とされる！)。

◆ルカ 15章の「放蕩息子」の喩えに、「人が父なる神に立ち返る4つの段階」を見る！①まず父からの自由を欲する段階。従順を嫌い、自由と自己実現をひたすら願う。②次は、願望を実行！財産を受け取り、家族と縁を切り、憧れの都会へ！何にも縛られず、はかない罪の楽しみを追いかけ、あっという間に財産は尽きた。『財産(ウ-シア)』とは「存在・本質」の意。彼は金を失ったのではなく、自身の存在価値を台無しにした！③そして気づく！父(なる神)を離れたこの世に、魂を満たすものが何もなく、本当に助けが必要な時に孤独で、豚の餌すら食べられない家畜以下の自分の惨めさに…。「自業自得だ！自分の罪は自分で責任取れ！」と言われて、人は救われるのだろうか？④「我に返った(17節)」彼は、父の許での生活の全てが神の恵みだったこと！それを自分で捨ててしまったこと！恵みから離れた生活は、空虚で孤独で惨めだと気づき、父の許に立ち返る！

◆我に返り、神の恵みに立ち返った時、彼はあり得ないものに出会う！理屈抜きで愛し、完全で、徹底した父の赦し！父は、愛する子が家を出た日から、来る日も来る日も帰還を信じて待ち続け、立ち返れば、元通り息子として迎え、大喜びの大宴会！これが父なる神の愛！私たちに注いだ価値を忘れることなく、立ち返る時には、完全に赦して迎える不変(普遍)の愛！しかし兄は激怒！彼は父の恵みの許にいながら喜びなく、不満の塊だった。父は言う「この子は死んでいたのに生き返った」と！「死んでいた」とは「神との関係が切れ、心通わぬ悪の奴隷」のこと…立ち返る者を喜び祝うのは当然！あなたは誰に自分を重ねる？愛から離れて罪に迷い、立ち返って赦しに泣く弟？神の恵みの中にいながらも喜びのない不満の兄？聖書は私たちに、父のようであれ！と勧める。

★今週、「敵をも愛し、恩知らずの悪人にも憐れみ深い父なる神の愛(マタイ 5:44～45、ルカ 16:35～37)」の中に憩い、本来の神の子どもに返り、出会う全ての人に憐れみ深い者として過ごせますように！